若　樹

杉並区立東田中学校

「挑戦」とは「知る」ことである　校長　坂本　聖二

令和5年度も残りわずかとなってきました。本校では3月18日（月）に第77回卒業式を挙行し131名の生徒が巣立っていきました。今年の卒業生も3年間で大きく成長し、様々な場面で活躍することで東田中学校を力強く牽引してくれました。卒業式でも素晴らしい歌声を響かせてくれ、とても感動的な式になりました。これからも卒業生の未来が明るく幸せなものになるよう応援していきたいと思っています。以下卒業式での校長式辞の一部を抜粋して掲載します。

校長式辞（一部抜粋）

勇気をもって新しいことに挑戦してください。「挑戦する」とは言い換えれば「新たなことを知る」ということだと思います。逆に言えば、「新たなことを知るためには挑戦しなければならない」ということです。この世界はとてつもなく広く、現段階で皆さんが知っていることはこの世界のほんのわずかな部分でしかありません。知らない環境、知らない人、知らない場所など、まだまだ知らないことがたくさんあります。本校の校歌の 2 番の歌詞を思い出してください。「新たなるもの前にあり、学べば知れば世は広し」と歌っています。皆さんの前にあるこれから経験することは、すべてが新たなことであり、知れば知るほどこの世界の広さを実感することになるでしょうと歌っているものだと思います。

現代はインターネットが発達したことで、自宅にいながらでも世界の様々な情報を知ることができます。しかし、「百聞は一見に如かず」というように、挑戦することを通して実際に見たり、聴いたり、経験したりすることで、ネットで得た知識よりはるかに多くの知識を得ることができると思います。

これから皆さんは高校に進学していきますが、これも新たな挑戦です。高校という新たな環境で、新たな人と出会い、新たな経験をすることで今まで知らなかった多くのことを知り、皆さんは大きく成長することになるでしょう。「中学校の方が良かった」などと後ろを振り返っていては前へ進むことはできません。人は今まで慣れ親しんだ環境にいる方が居心地がよく、別の環境に飛び込むことを好みません。確かに、薄暗い中で先がぼんやりとしか見えないのに、一歩踏み出して前へ進むのはとても勇気がいることです。でも勇気をもって前へ踏み出しその先にある電気をつければ、そこには皆さんの可能性を伸ばしてくれる新たな知識がたくさん見えてくるはずです。

人生は挑戦の連続です。挑戦することを止め、知ることを止めるということは、皆さんのもつ可能性を潰してしまうことになります。小さな挑戦もあれば大きな挑戦もあり、時には失敗することもあるでしょう。でも、たとえ失敗しても挑戦したことによって得た知識は、皆さんをさらに大きく成長させてくれるはずです。

「井の中の蛙　大海を知らず」という言葉がありますが、井戸という小さく限られた環境の中での生活に満足してそこに留まり続ければ、井戸の外に広がっている大きな世界のことを知らずに一生を終えることになります。皆さんは決して「井の中の蛙」にならず、勇気をもって井戸から飛び出すことに挑戦してください。井戸の外には新たな素晴らしい世界があると信じて、勇気をもって前へ進んでください。

「送ることば」

　春の日差しに照らされ、桜のつぼみが開花を待ちわびるように少しずつ膨らんできました。三年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。皆さんの中学校生活は、感染症などの影響で思い描いていたものとは異なっていたと思います。そんな状況でも力強く前を向き、絆を紡いでいく姿はとても輝いていて、その姿は私たち後輩にとってあこがれの存在でした。そんな先輩方の団結力は、東田中学校の二大行事の際、特に発揮されていました。運動会では、クラス全員で声援を送って、出場者を応援していて、私たちが目指す三年生の姿と重なりました。また、合唱コンクールで聞かせてくれた一人一人が練習を重ねて磨き上げた心のこもった合唱は、思わず聞き入ってしまう魅力がありました。また、日々の生活の中でも、先輩方はお手本のような存在でした。入学してすぐのころ、すかさず声をかけて私たちを引っ張ってくださり、様々な場面で模範となってくださいました。東田中学校という大きな木で、きれいな花を咲かせてくれた先輩方も今日で卒業してしまいます。皆さんはそれぞれ自分の道を進んでいくことと思います。先輩方が春の桜の開花とともに東田中学校という木を旅立っても、また新たな場所で再び美しい花を咲かせてくれることを願っています。皆さんは東田中学校という伝統のある木を守り、美しいまま私たちに受け継いでくれました。私たちもこの場所で立派な花を咲かせ、後輩たちが花開く場を残していこうと思います。そして何より、これまで、皆さんが温かく接してくださったことに、感謝の気持ちでいっぱいです。最後になりましたが、先輩方のご健康とご活躍をお祈りし、送る言葉とさせていただきます。

令和六年三月十八日

在校生代表　小坪言

「別れの言葉」

きらめくような春の日差しに温かく照らされる今日、私たち卒業生一三一名はこの東田中学校を卒業します。三年前の春、新しい制服に身を包んだ私たちは、期待と不安を感じながら入学しました。新型コロナウィルスの影響でフレンドシップスクールが縮小されたり、部活ができない期間があったりするなど、初めは思い描いた中学校生活が叶わないこともありました。しかし、徐々に通常の学校生活となっていく毎日を私たちは楽しみました。全力で勝利を目指した運動会、クラス一丸となって練習を積み重ねた合唱コンクール、久しぶりの宿泊行事に心を躍らせた菅平スキー教室、京都や奈良に自然を感じ、本物に触れて歴史を学んだ修学旅行、そして何気ないことで笑いあった日常、これら全てが私たちの三年間を鮮やかに彩っています。必死で駆け抜けた三年間はあっという間でした。委員会活動や部活動で楽しいことだけでなく、辛いことも沢山あり、何度も涙を流しました。しかしどの経験も今の私を形作る大切なピースの一つです。先輩を追いかけていた自分は、気づけば後輩に慕ってもらえる存在になっていました。学習でも、以前の自分には解けなかった問題が今では解ける、そう感じることがあります。私は、自分の成長がとても嬉しく、そして誇らしく思います。このように思えるのは、先生方のおかげです。勉強を教えるだけでなく、どんな時も相談にのり、話を聞いてくれました。受験で辛かった時も、先生がかけてくれる言葉の数々が、私にもう少し頑張る力をくれました。最後まで応援してくれて本当にありがとうございました。恩返しできるよう、今後も努力を重ね、さらに自分を高めていきたいです。

　素晴らしい思い出の中には、在校生の皆さんの姿も鮮明に残っています。私たちは、部活動や委員会活動を通じて後輩である皆さんから多くのことを学びました。皆さんと共に歩んだ日々は私たちの宝物です。私たちは先輩としていつでも完璧だったわけではありません。それでも、皆さんは私たちについてきてくれました。今まで本当にありがとうございました。中学校で過ごす時間は、あっという間です。いろいろなことに挑戦し、後悔のないように頑張ってください。そして、この三年間、いえ、十五年間、私たちが生まれてから育ててくれた家族のみんな。いつもわがままを言ったり、反抗したり、時には傷つけてしまったことがあったと思います。それでも、部活動の応援や受験勉強のサポートをしてくれました。私たちが辛い時には話を聞いてくれました。それが、いつも心の支えでした。私たちは今日、中学校を卒業します。これからも胸を張って進んでいきます。今まで本当にありがとうございました。そして、これからもよろしくお願いします。私たちはこの三年間、ここにいる仲間と様々な壁を乗り越えてきました。しかし、私たちは今日ここで別れ、それぞれの選んだ道へと進んでいきます。寂しくないと言えば嘘になります。けれど私たちは、仲間と過ごした日々で、その培った絆で、そのぬくもりで結ばれています。私たちはこの先もずっと一つです。最後に、私たちが三年間過ごしてきた日々へ、私たちが歩んできた道へ、別れと感謝の気持ちを込めてこの歌を贈ります。

令和六年三月十八日

卒業生代表　小川みなみ　本田太陽